

ふれあいの街中空間を創る



# 公共施設などの 再編整備 を検討しています

## 生涯学習センターの建て替えにかかるとの意見交換会

### 町民同士の語り合いにより、魅力的な学習センターの形が生まれる

12月8日(日)生涯学習センターの基本計画の策定に向け、北海道大学大学院・森傑教授と大学院生らの協力のもと、「町民の意見を引き出して議論し、またその意見をもとに町民自らが具体的な建物のデザインを考える」という意見交換会を行いました。

まず、森教授から街全体の構想に関する説明があり、街の重要な軸や場所の持つ役割などを町民が把握することから始まりました。

説明後は、町民が4つのグループに分かれて、自分の公共施設の利用状況について話し合ったり、建て替えに向けての要望などを語ったりと活発な意見交換をしました。

また、各グループごとに意見をまとめてテーマを決め、用意された敷地や建物の模型を使いながら、建物の出入口や各部屋の場所などを検討し、建物の形を作って発表しました。

それぞれのグループならではの提案が出たことで、さまざまな建物の可能性を見ることができ、「生涯学習センター」の建て替えに向けての意識を高め合うことができたようです。

## ステップ1『現状の確認』

～町民同士で現状の施設について語り合おう～

現状の施設についての主な意見

### ▶現状の利用について

- ・201、202号室をよく利用する
- ・生涯学習センターは、イベントで利用する
- ・サークルの時は子どもと交流ができて楽しい

### ▶要望について

- ・子どもとお年寄りが一緒に過ごせる場所
- ・サークルのための常設ギャラリー
- ・ごはんを食べる場所

### ▶問題点について

- ・駐在所住宅や子育て支援センターの建物が、土地利用のうえで支障となる
- ・街で行動していて、休める場所がない
- ・子どもたちが手軽に勉強できる場所がない

### ▶要検討事項について

- ・子どもの声がどこまで漏れてよいのか考える
- ・音の出るサークル活動との住み分けが必要
- ・建物の中の共用空間と部屋の中との関係が大事



まずはじめに、現状の生涯学習センターや統合に係る施設について、町民同士が意見を出し合いました。普段、施設をどのように使っているのか、使っていて気になる点はあるか、満足しているか、不満はないか、これから期待することなど、ざっくりばらんに語り合い、上表のように、さまざまな意見が出されました。

中でも、世代間の交流に関する意見が多く、今後、施設が統合されることを考えるうえで、とても大切であることが確認されました。

## ステップ2『目標の設定』

～それぞれのグループが目指すテーマを決めよう～



各班のテーマ

多様な活動ができる施設

いろいろなものが集まって相乗効果が生まれる施設

外から内、内から外がわかりやすい施設

人の集まる中心のある施設

次に、各班で話し合った現状の施設に対する意識をもとに、森傑教授から班ごとにテーマが出されました。

**多様な活動ができる施設**  
ロビーや共用空間はどのようなに利用するか、施設と街にどのようなつながりを持たせて利用をさせるか、人が盛んに交流のできるようにするために、どのような施設であるべきかなどを考えました。

**いろいろなものが集まって相乗効果が生まれる施設**  
生きがいセンター、学童保育所などの機能同士が関わり、利用者の交流が深まる施設であるためにはどうすべきか。あるいは、一人でも静かに過ごせる場所として利用するには、それぞれの機能をどのように関わらせることが必要かなどを考えました。

**外から内、内から外がわかりやすい施設**  
建物の内からも外からも様子が見えたり、建物にふらっと入りやすくなるなど、親しみが感じられるような施設とはどのようなものかなどを考えました。

**人の集まる中心性のある施設**  
人が集まる施設とはどのようなものか、街と施設とをどのようにつなぐを持たせるか、人が盛んに交流できるようにするためには、どのような施設であるべきかなどを考えました。

## ステップ3『模型を使ってイメージ』

～新しい生涯学習センターを作ってみよう～

各班のテーマと参加者の主な意見・要望

▶ 1班:多様な活動ができる施設

- ・展示を見ながら飲食できる場所
- ・部屋での活動が見える場所(ガラス張り)
- ・子どもとお年寄りが一緒に過ごせる・会話できる場所
- ・お年寄りと子どもが視線でつながる

▶ 3班:外から内、内から外がわかりやすい施設

- ・ガラスで外から中が、中から外が見やすい
- ・南側に施設の建物の正面を作る
- ・ガラス壁によって全体的に明るく、施設の雰囲気も明るくする
- ・入口から中心広場が見えることで、無目的の利用者を増やす

▶ 2班:いろいろなものが集まって相乗効果が生まれる施設

- ・いちいち届け出をささなくても使える場所
- ・お互いの様子をうかがえる仕組み
- ・誰でもすぐに行って使える場所(たとえば、ロビー)
- ・子どもが他の部屋の活動をのぞける仕組み(大人と接する機会をつくる)

▶ 4班:人の集まる中心性のある施設

- ・歩行者が出入りする場所は緑があると良い
- ・東西で突き抜けて移動空間があると良い
- ・室内のみんなが集まる場所からは、緑が見えると良い
- ・南、東側の駐車場からすぐに入出入りできる入口があると良い



最後に、色分けされたブロック(模型)を使って実際に新しい生涯学習センターを組み立てました。また、ブロックは現状施設の部屋を模して分割されており、参加者はそれらを敷地面図の上に置き、議論しながら建物の形を作っていました。

各班ではテーマの実現を目指して活発な意見が交わされました。

1班は、多様な活動ができる場所を通路(共用部)に沿って配置しました。2班は、いつでも誰でも使えるスペースを複数設け、多世代が飲食、話し合いができる場所を用意しました。3班は、中心に交流の広場をつくり、外から内、内から外が見えるように外壁をガラスとしました。4班は、多方向から出入りが可能な4カ所の入口を設け、ふらっと立ち寄れるような広場を室内に作りました。

どの班からも新しい魅力的な生涯学習センターのアイデアが示され、非常に有意義な意見交換会となりました。